



▲太田屋ではエサ釣りやルアー釣りで釣り座を分ける。当日のヨッシーの釣り座は左舷ミヨシ

完全にコマセに着いている東京湾のアジの場合、釣果はLTアジ10に対してバチコン1、とも言われているんだ。

バチコンは、決して難しい釣りではない。軽くキャストし、着底したらゼロテンでステイ。数秒待ってアタリがなければ、チョンチョンと竿先を揺するようにして誘いをかける。アタリは「これがあの元気がっぱいのアジ!」と思うほど、微妙なことが多い。モゾッと竿先のモタレや、コンツという小さなものがほとんど。ほんのわずかな違和感を逃さず、必ずピシッと合わせを入れる。グツと竿先に重みがかかる。軟らかめのロッド、PE0.4、0.8号という細い道糸、シンプルな仕掛け、10〜15号の軽いオモリ、そして元気で口切れしやすいアジ。これらの要素によって、ヤリトリはかなりスリリングだ。ドラグも緩めに設定するので、ジジッと道糸を引き出されることも珍しくない。そう、「どうせアジだし」といった甘えや緩みは一切許されないのだ。1尾1尾に真摯に向き合い、慎重に、そして大切にヤリトリする。ドキドキしながら1尾のアジをバチコンで釣り上げたとき、「アジってこんなに素晴らしい魚だったのか」と改めて見直すことになるだろう。このあたりは、東京湾で主流

のLTアジとはだいぶ雰囲気が違う。コマセでテンションが上がったアジは、ほとんどオートマチックにハリ掛かりしてくれる。もちろんLTアジでもタナの合わせ方や誘い方、手返しなど十分すぎるほど奥深く、ベテランとビギナーでは釣果に大きな差がつくものだ。しかし基本的に数十尾は釣れて当たり前、東超えでクーラー満タンも決して珍しくない。一方のバチコンは、ソフトルアー選びやアクション、積極的な合わせ、スリリングなヤリトリ

状況を読みながらソフトルアーやリグ(仕掛け)、そしてアクションをあれこれトライできるのは、ルアーフィッシングならではの「だいご味だ」。このバチコン、でかいアジが釣れると評判だ。東京湾ではLTアジ船への同船が基本だが、エサよりワンサイズでかい40センチ級のギガアジが釣れることもある。その実力を目の当たりにしたエサ釣り師が、「えっ!? ホントにソフトルアーでそんなにでかいアジが釣れるんだね! 今度やってみようかな」と驚きの声を上げる場面も少なくない。また、「ソフトルアーIIでかアジ」

▲トモキがLTアジ釣りに初挑戦し、25〜30センチ前後をポツポツ釣り上げる

ツリガチ!

TSURI GACHI

FINAL EPISODE

東京湾のバチコンアジング

文◎高橋剛

★ガチのリアルフィッシングドキュメント、「ツリガチ!」。

その本領発揮ともいえるガチな戦いが、2月20日の東京湾で繰り広げられた。ソフトルアーでアジを狙う「バチコン」である。このムズカシオモシロ釣法は、ガチでひと筋縄ではいかない。いつか訪れるそのときを夢見て、ひたすらソフトルアーを操り続けるツリガチ取材班なのである。



▲釣り場は八景沖の水深25〜30メートル前後

「アジは怖い」これはツリガチ取材班の本音である。「まんじゅう怖い」的なウラの思惑がある話では、断じてない。本当に怖いのだ。東京湾の船釣りにおいてアジといえば、風のごとく、そして水のごとく、そこら辺にいて当たり前前、と思われガチである。実際、ライトアジ(以下LTアジ)は周年ほぼ安定して釣れることから、東京湾の定番釣り物になっている。おいしいアジがよく釣れるとあって、船釣り入門としても人気だ。しかし、そのアジを船からソフトルアーで釣ろうと思った瞬間に、話はかなり変わってくる。専用の胴つき仕掛けにソフトルアーを装着し、垂直方向の釣りアジに迫ることから「バチコン」(バチコンタクト)と名付けられた、いわゆるバチコンである。

面白さ10倍、釣果10分の1 東京湾のバチコンアジング 船着き場を離れて20分ほど。金沢八景沖、水深25メートル前後の根回りで釣りが始まった。ヨッシーは、東京湾バチコンアジングの定番ソフトルアー、ジャックカル・ペケリング3インチのイソメグロークラッシュからスタートし、「まずは1尾」を手堅く狙う。だが、この日の東京湾はひどく手厳しかった。「アジは怖い」

「基本的には数釣りという点ではコマセが有利なのは確か。でもソフトルアーでしか釣れない、ということも経験してるよ」とジャックカルプロスタッフのヨッシーこと吉岡進さん。ヨッシーが言うなら間違いはない! そして今日はきつとそんな日だ! ヨッシャーヨッシー、行くぞ! と、鼻息荒く東京湾奥金沢八景の太田屋に乗り込んだヨッシーとツリガチ取材班。午前7時15分の出船段階では、元気いっぱいだった……。

東京湾の当日のLTアジ船で見つけた バチコンアジングで 〇〇がちなシーン

最後はコマセの集魚効果に頼りがち



▲最後の手段としてコマセを振るトモキの隣に陣取り、船下に集まっているアジをなんとか釣ろうと試みる……が、ダメだった

▶アタリがきて合わせでも掛からないときは仕掛けを回収し、ソフトルアーをチェック。丸まっていたり、ズレていたらアジが吸い込んで吐き出した可能性が高い

ソフトルアーに迷いがち

▶アタリがないときはルアーをチェンジ。カラー、形状、サイズなど釣れている方に合わせるのがセオリーなのだ。だれも釣れていないと迷ってしまう

▼午前船はノーヒットで終わり、後半戦に臨むツリガチ取材班。午前船の反省会を急ぎよ開き、午後船の作戦を立てる



反省会 & 作戦会議をしがち

お土産を狙いがち



▲今回はお土産のアジを釣るためエサ釣りに挑戦したトモキ。釣り方を船長に教わり、慣れてくると入れ食いも堪能。もちろんお土産もバッチリ

最後の最後はアカタンで釣りがち

▶ソフトルアーでアタリがないため、1尾を釣るためになり振り構わずピン仕掛けを使うイチロウ。アカタンを付けて投入し、コマセを振るトモキの横でアジを釣りに上げる

コマセに着いてるアジが難しいのは確かだけど、ここまでアタリがないのも珍しいな……



▲癒やしのメバル。本命ではないものの1尾釣れるとうれしい



▲午後から上げ潮になりカサゴがよく釣れた



▼ヨッシーもカサゴをキャッチ



▲曇りに空を見上げるとバツテンの形をした雲。まるで釣れなかったことをダメ出しされているようだった

「みんながカサゴを釣ってるのを見て、ソフトルアーを思いっきり底にはわせちゃったよ」と苦笑いながらも、本日2尾目はさすがにうれしそうだ。しかし、アジは食ってこない。ヨッシーいわくアタリはあるがガチでソフトルアーを吸い込むほどの食い気はないようだ。アジがほぼ入れ食い状態となったトモキの両脇を、ヨッシーとタカハシゴーが挟み、超接近戦を試みる。トモキが振り出すコマセに、アジが寄っていることは間違いない。コマセ煙幕のまっただ中にソフトルアーを漂わせるという、欲望ダイレクト釣法である。だが、やはりモニョツというアジらしきアタリがあるものの、その頻度は極めて低く、吸い込みは極めて弱い。常にアタリを鋭敏に察知する

「よっ、信頼と安心と実績の吉岡達。カッコいいよ!」と、盛り上がるツリガチ取材班。竿がギューンと引き絞られる。キタキタ、よし、ここから反撃だ! 近ちゃんこと近田編集部員の、カメラを握る手にも力が入る。そうして上がってきたのは、春を告げる魚、メバルであった。東京湾バチコンの定番ゲストだ。「とりあえず魚の顔を見られて



▲アジのアタリがほしいバチコン組

体が薄く、さらにソフトルアーにまったくリアクションしてこない状況では、正解の探し方がないのだ。釣り開始から40分ほど経過した午前8時10分、ついにヨッシーがピンツと合わせた! さすがはプロ、さすがはヨッシー。これだけ厳しい状況でもしっかりと釣果を出す男。「よっ、信頼と安心と実績の吉岡達。カッコいいよ!」と、盛り上がるツリガチ取材班。竿がギューンと引き絞られる。キタキタ、よし、ここから反撃だ! 近ちゃんこと近田編集部員の、カメラを握る手にも力が入る。そうして上がってきたのは、春を告げる魚、メバルであった。東京湾バチコンの定番ゲストだ。「とりあえず魚の顔を見られて

「やるか」「やろうぜ」だれひとりとして、これで終わるつもりはなかった。午後船、ゴー! 潮回りは大潮で、11時が干潮である。午後は上げ潮で、午前中は少し吹いていた風も弱まる予報だ。ヨッシーも「午前は不発でも午後に大食い、なんてことも珍しくないからね」と、期待する。太田屋は、午前・午後の通しだと乗船料が割り引かれるのもありがたい。モチベーションの高さ。潮回りのよさ。ナギ。そしてリーズナブル。好条件がそろい、これはもうアジが釣れると思えない午後船は、12時15分に船着き場を離れた。午前とは同じポイントでの釣りが始まると、LTアジで挑んでいるトモキがいきなりバタバタとアジを釣った。キタ!

「コマセに着いてるアジが難しいのは確かだけど、ここまでアタリがないのも珍しいな……」と悔しがらる。「ソフトルアーを替え、オモリを変え、ハリスの長さを変え、アクションを変え、と、思いつくことは全部やってみただけ、まったく反応がなかった。こういう日もあるんだな……。アジはポイントとして、目の前に漂ってくるコマセを、ただ口を開けて取り込んでいるような感じだったんだらう。かと思えば、コマセに反応がなくてソフトルアーだけを食ってくることもあるんだから、本当に分からない。やっぱり、アジは怖い。だからこそ、チャレンジのしがいがあるんだね」



▲バチコンの実績のある本牧沖へ移動するもノーヒット